



2026年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月14日

上場会社名 株式会社インティメート・マージャー 上場取引所 東
コード番号 7072 URL <https://corp.intimatemerger.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 築島 亮次
問合せ先責任者 (役職名) 管理本部部长 (氏名) 寒澤 陽平 TEL 03 (5114) 6051
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2026年9月期第3四半期の連結業績（2025年10月1日～2026年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期第3四半期	2,715	7.7	257	42.1	261	44.2	177	47.0
2025年9月期第3四半期	2,522	10.3	181	166.5	181	162.0	120	169.6

(注) 包括利益 2026年9月期第3四半期 178百万円 (45.9%) 2025年9月期第3四半期 122百万円 (167.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期第3四半期	56.66	56.12
2025年9月期第3四半期	36.65	36.21

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期第3四半期	2,355	1,747	72.2
2025年9月期	2,191	1,556	69.1

(参考) 自己資本 2026年9月期第3四半期 1,700百万円 2025年9月期 1,513百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年9月期	—	0.00	—		
2026年9月期（予想）				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年9月期の連結業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,704	10.1	284	25.1	283	23.8	185	20.6	59.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年9月期3Q	3,163,250株	2025年9月期	3,120,350株
② 期末自己株式数	2026年9月期3Q	19,621株	2025年9月期	21,221株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年9月期3Q	3,130,885株	2025年9月期3Q	3,292,107株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社グループとして約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

決算補足説明資料は、2026年8月14日(金)に当社ホームページに掲載いたします。

当社は、2026年8月24日(月)に個人投資家向け説明会を開催する予定です。なお、決算説明会はオンライン開催とさせていただきます。その模様及び説明内容(動画)については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各種政策の効果もあり、雇用や所得環境の改善やインバウンド需要の増加がみられ、緩やかに景気が回復する動きがみられました。一方で、ウクライナ情勢の長期化に加え、米国を巻き込んだイラン・イスラエル間の紛争激化など中東地域における地政学リスクが一段と高まっており、物価高止まりによる消費マインドへの影響、為替相場の変動や海外景気の下振れ懸念、ならびに国内における慢性的な人手不足など、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

企業のデジタルトランスフォーメーションやデータ利活用が加速する環境下において、国内スマートフォンの主要シェアを占めるiOS（Safari）等では、プライバシー保護の観点からブラウザ上の行動データ捕捉が困難な状況が続いております。こうした中、当社が提供する「IM-UID」は、単なる規制への代替技術にとどまらず、ユーザーへのリーチや精緻な分析を実現するための不可欠な「データインフラ」として定着し、Googleアドマネージャー等のプラットフォームを通じた利用量が拡大しております。

加えて、急速に社会実装が進む生成AI領域においては、AIエージェントの駆動や回答精度の向上、さらには検索エンジン最適化（SGE/LMO）を目的として、AIに学習・参照させるための「高品質なオーディエンスデータ」への需要が急増しております。当社はこれらAIのパフォーマンスを左右するデータ供給元としての役割を担いつつあり、「ポストCookieソリューション」及び「AI時代のデータ活用インフラ」としての需要は順調に伸長しております。

ソリューション毎の経営環境につきましては、マーケティング支援においては、顧客企業のデジタルマーケティング内製化の高まりに合わせ、セルフサービスでデータ仕入れを行えるサービスの提供等を進めました。これにより内製化ニーズに対応したサービスのリリースを進めたものの、顧客側のデータ活用スキルに差があることから十分な活用に至らないケースが発生したことや、より手離れの良い成果報酬サービスが顧客から強く求められるようになったことから、売上高、アカウント数、平均単価ともに前年同期比で減少となりました。

データマネジメント・データアナリティクスについては、ポストCookie領域におけるデータ利用ニーズの増加を中心に、売上高・利益ともに前年同期比で順調に増加しました。当社独自の識別子である「IM-UID」がアドテク領域におけるデータインフラとして広がり、これを利用した広告配信量が増加したことで、データ利用料が順調に増加トレンドにあります。加えて、成果報酬型・従量課金型の新たなサービスモデルのリリースや、AIエージェントへの組み込みニーズの高まりにより問い合わせや商談が増加しております。一方で、データ利用を開始した一部の提携先企業における実際の活用や導入プロジェクトの進捗に遅れが見られるなど、顧客側の導入・活用に至るまでのリードタイムの長さが課題となっており、早期の収益化に向けたスピード向上に努めております。

成果報酬型ディスプレイ広告運用サービス「Performance DMP」については、収益性を重視した営業方針や案件選別により平均単価は前年同期比で大幅に上昇して四半期推移でも過去最高を更新し、売上高および利益ともに前年同期比で大幅な伸長となりました。これまでの不採算案件選別などによりアカウント数は前年同期比で減少したものの、外部の先進的な広告インテリジェンスとの連携による新たな商品の導入効果や、自社主体で新規アカウント数を伸ばせる仕組みへの転換（受注体制の見直し等）が進んだことで、前四半期比では増加基調に転じ、下げ止まりを見せております。

費用面においては、生成AIやAIエージェントの活用による問い合わせ対応の省力化や業務効率化によるコスト最適化を図る一方で、従業員数増加に伴う人件費の増加や販促施策の費用負担増、サーバー費用等の固定原価の発生などにより、販売管理費は前年同期比で増加いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,715,860千円（前年同期比7.7%増）、営業利益257,339千円（同42.1%増）、経常利益261,232千円（同44.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益177,409千円（同47.0%増）となりました。

なお、当社グループは、DMP事業の単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けた記載を行っておりません。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における総資産は2,355,881千円となり、前連結会計年度末に比べ164,776千円の増加となりました。

流動資産は2,281,013千円となり、前連結会計年度末に比べ168,648千円増加しました。これは主に現金及び預金が増加したことに由来するものであります。固定資産は74,867千円となり、前連結会計年度末に比べ3,871千円減少しました。これは主に投資その他の資産が減少したことによるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債は608,516千円となり、前連結会計年度末に比べ26,135千円の減少と

なりました。

流動負債は534,849千円となり、前連結会計年度末に比べ11,479千円減少しました。これは主に未払法人税等が23,314千円減少したことによるものであります。固定負債は73,666千円となり、前連結会計年度末に比べ14,656千円減少しました。これは主に長期借入金が14,994千円減少したことによるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は1,747,365千円となり、前連結会計年度末に比べ190,912千円の増加となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益177,409千円の計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は72.2%（前連結会計年度末は69.1%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は、概ね当社の予想範囲内にて推移しており、2026年9月期通期業績予想につきまして、変更はありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,625,786	1,797,796
売掛金	462,190	447,293
契約資産	6,208	4,113
貯蔵品	513	833
その他	17,667	30,977
流動資産合計	2,112,365	2,281,013
固定資産		
有形固定資産	6,638	5,475
投資その他の資産	72,100	69,392
固定資産合計	78,739	74,867
資産合計	2,191,105	2,355,881
負債の部		
流動負債		
買掛金	314,580	354,529
1年内返済予定の長期借入金	19,992	19,992
未払法人税等	71,460	48,145
契約負債	2,134	2,186
賞与引当金	25,109	13,573
その他	113,052	96,422
流動負債合計	546,329	534,849
固定負債		
長期借入金	80,008	65,014
資産除去債務	6,300	6,300
その他	2,014	2,352
固定負債合計	88,322	73,666
負債合計	634,651	608,516
純資産の部		
株主資本		
資本金	478,170	481,667
資本剰余金	458,170	462,488
利益剰余金	596,314	773,724
自己株式	△18,681	△17,032
株主資本合計	1,513,972	1,700,847
新株予約権	17,089	20,170
非支配株主持分	25,390	26,347
純資産合計	1,556,453	1,747,365
負債純資産合計	2,191,105	2,355,881

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
売上高	2,522,075	2,715,860
売上原価	1,853,411	1,925,622
売上総利益	668,664	790,238
販売費及び一般管理費	487,595	532,899
営業利益	181,068	257,339
営業外収益		
受取利息	776	2,897
為替差益	14	644
ポイント還元収入	792	1,112
その他	0	99
営業外収益合計	1,583	4,753
営業外費用		
支払利息	860	802
支払手数料	646	—
その他	29	58
営業外費用合計	1,536	860
経常利益	181,114	261,232
税金等調整前四半期純利益	181,114	261,232
法人税等	58,880	82,865
四半期純利益	122,233	178,367
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,566	957
親会社株主に帰属する四半期純利益	120,667	177,409

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	122,233	178,367
四半期包括利益	122,233	178,367
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	120,667	177,409
非支配株主に係る四半期包括利益	1,566	957

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	1,540千円	1,163千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)

当社グループは、DMP事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)

当社グループは、DMP事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。